The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	World Wide Views in JAPAN : 日本からのメッセージ : 地球温暖化を考える
Author(s)	
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12910
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

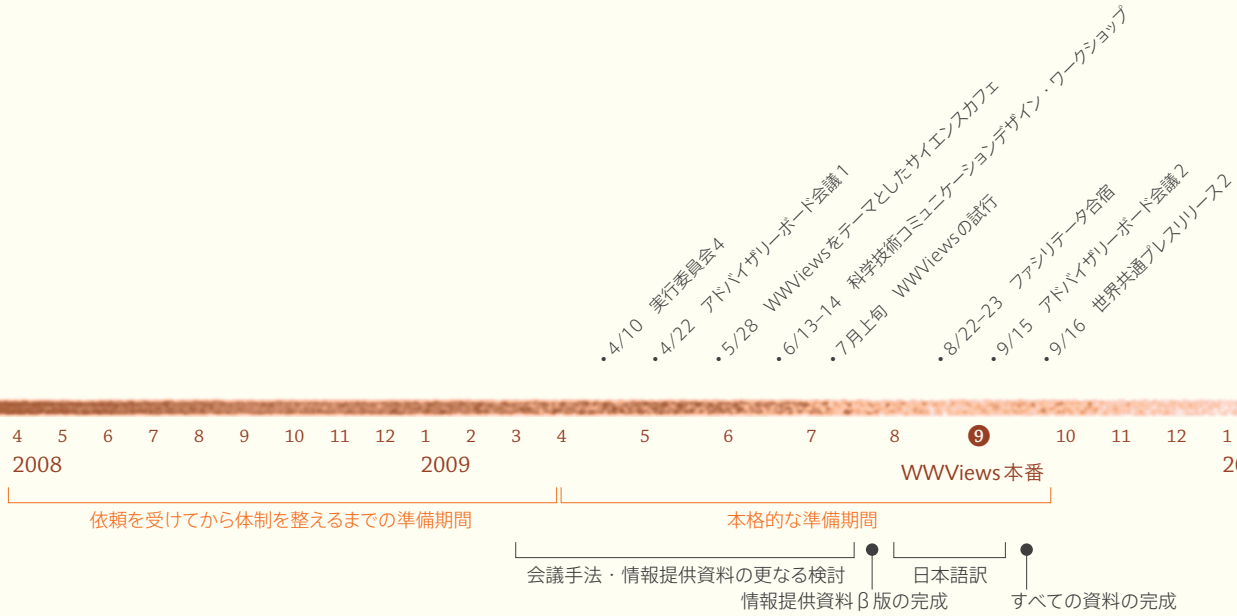
–Story 2–

2009.4-2009.9

アドバイザリーボード会議を開催、プロジェクトが本格的に始動！

浅岡美恵氏（特定非営利活動法人気候ネットワーク代表・弁護士）、西岡秀三氏（独立行政法人国立環境研究所 特別客員研究員）、桝本晃章氏（東京電力株式会社 顧問）、村上陽一郎氏（東京理科大学大学院教授）によるアドバイザリーボードが設置され、プロジェクトがますます具体化してきました。

WWViews全体の流れと
この時期の主なトピック



・2009年 4月22日

アドバイザリーボード会議

4月22日（水）午後2時から4時まで、科学技術振興機構社会技術研究開発センターにおいて、アドバイザリーボードメンバーである村上陽一郎氏、西岡秀三氏、桝本晃章氏の参加を得て、第一回アドバイザリーボードを開催しました。

実行委員会委員長から、昨年春以降の本プロジェクトの経緯や準備状況について説明し、本プロジェクトの社会的意義について意見交換をすると共に、実施に当たっての留意点などについて、アドバイザーから助言を頂きました。

・2009年 5月28日

なにわ橋駅アートエリアB1にてサイエンスカフェ

5月28日に京阪電鉄中之島線なにわ橋駅のアートエリアB1で行われましたサイエンスカフェ「地球温暖化、あなたはどう考える？～デンマーク発、国際ネットワークの試み」を開催し、WWViews in JAPAN 実行委員長の小林傳司が、このプロジェクトについて説明しました。

当日は、20人ほどの方が来場され、さまざまな意見を頂くことができました。

・2009年 6月13日～14日

東京大学駒場キャンパスにて、ワークショップを開催

科学技術コミュニケーションデザイン・ワークショップにおいて、WWViewsの企画について報告し、特に市民参加型テクノロジーアセスメントの観点から、この種の試みの意義について検討を行いました。

• 2009年 7月上旬

WWViewsの試行
学生有志の企画の立ち上げ

大阪大学CSCDが開講している授業の一環で、WWViewsの試行を行いました。

具体的には、約20人の学生が3グループに分かれて、当日とほぼ同じスケジュールで、気候変動問題に関する議論を行いました。

またこの授業に参加していた学生を中心に、大阪大学の学生を対象に、大阪大学版のWWViewsを実行することになり、有志で実行委員会が立ち上がりました。

Side Story —— 実施主体スタッフの動き

7月～ 一般参加者リクルーティング開始

地域、性別や年齢等を考慮して、World Wide Views in JAPANの参加者のリクルーティングを行いました。（専門機関によるリクルーティングであり、一般公募方式による募集は行いませんでした。）※1

※1：参加市民の選定について ▶ 記録集③ P5-7

7月上旬～ 日本語版の資料を作成

ようやく当日に使用する情報提供資料、質問項目（英語版）が確定し、日本語版の作成を開始しました。ここからは時間とのたたかいです。

具体的には、地球温暖化問題に関する国内の専門機関が翻訳を行った上で、実行委員会内の気候変動問題に関する専門家メンバーが、その妥当性についての確認を行い、更にサイエンスライティングの専門家が、一般市民の立場にたって文章の見直しを行いました。

8月18日 一般傍聴受付開始

ホームページを通じて30名の一般傍聴者を受け付け始めました。

8月18日 会場レイアウト決定

参加者のテーブル間隔、音響、スクリーンの配置、入退場の動線、空調、トイレやお茶コーナーとの位置関係、傍聴席の配置など様々な条件を検討した上で、ようやく会場レイアウトが決定しました。

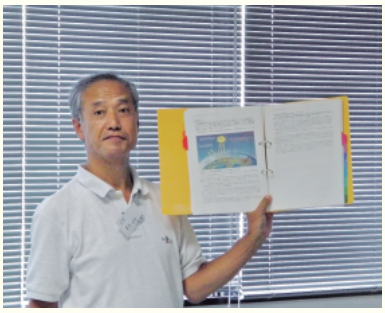
・2009年 8月22日～23日

スタッフ合宿

実行委員会メンバー、および20人（補欠2名を含む）のグループファシリテーターが一堂に会し、9月26日当日に向けた合宿を行いました。

この合宿では、グループファシリテーター自らが参加者となって、当日の試行を行い、進行方法の詳細について活発な議論を行いました。

ここでの議論をふまえ、情報提供資料の翻訳や、当日のマニュアル等に改訂が加えられていきました。準備もいよいよ佳境です。



直前まで続く準備作業

9月に入ってからは、さまざまな締切と格闘する毎日。デンマークとのやりとりもあわせて、ほぼ24時間体制で、作業が進行して行きます。

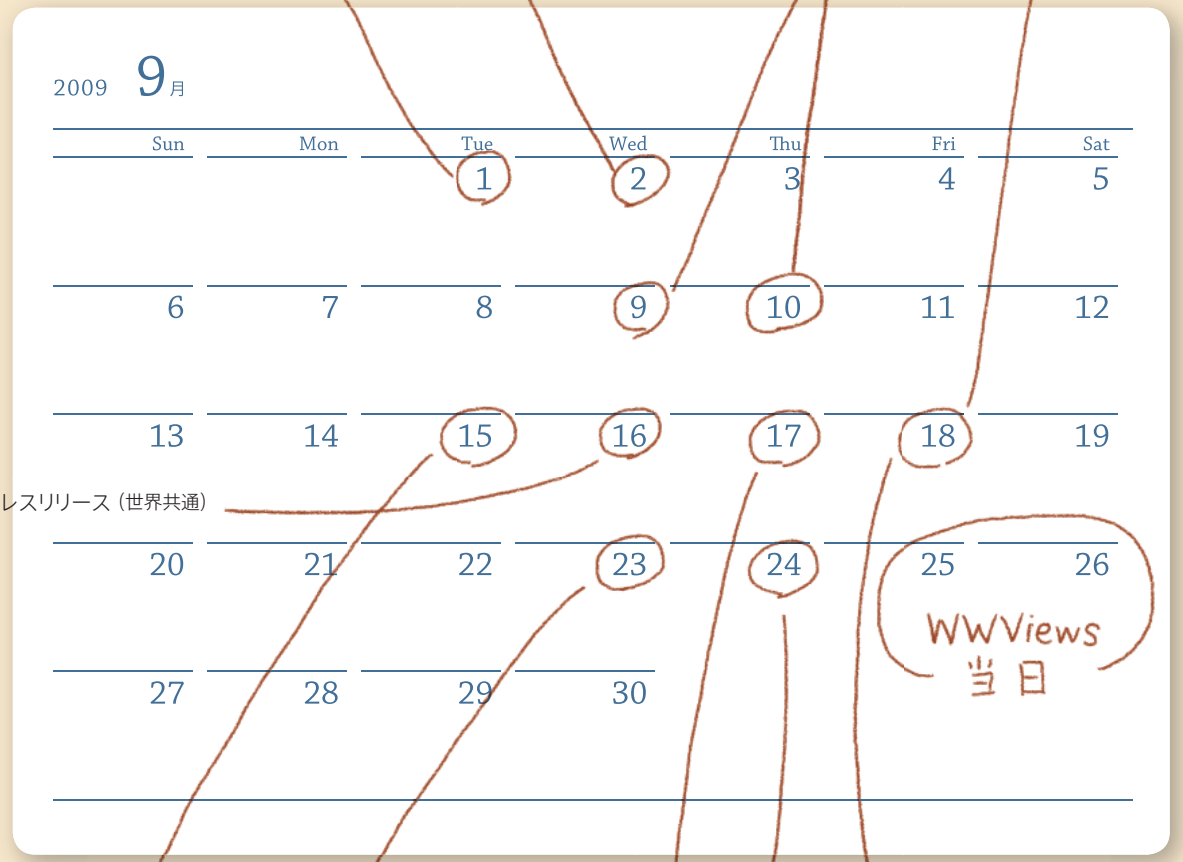
やっと、当日使用するビデオ資料が届く。日本語に翻訳の上で、吹き替え。

情報提供資料（日本語版）完成。印刷へ。

Tシャツのデザインが完成

情報提供資料（日本語版）の印刷が終了し、参加する105人の市民へ発送。

Tシャツとエコバッグが納品



最後のプレスリリース（世界共通）

アドバイザリーボード会議

全ての段ボール発送

弁当、飲料の発注完了

直前の打ち合わせ

グリーン電力の手続き